

「学びの变革」通信

イノベーション人材育成推進教員活用事業

7月11日（金）には、郷ヶ丘小学校で理科実験講座が、また、7月15日（火）には、泉北小学校で算数・数学科授業研究会が行われました。理科の探究的な楽しさ、数学的に思考する楽しさを感じることができた研修になりました。以下は、それぞれの研修感想です。



【理科】

- ・身近な物や安価なもので、本日のような楽しい理科の実験が進められるとは思わなかった。どの実験も新鮮でとても楽しかった。教師が楽しんで理科の実験の準備や授業を行えば、児童も理科が好きになるのだろうと感じた。
- ・今後の理科の授業に大いに役に立つ内容ばかりで、指導者が今まで苦労していたことがクリアされた。例を挙げるなら、デンプンのヨウ素液反応。ジップロックを使用したもので、後片付けや準備において短時間でできる目からうろこの内容だった。これなら授業で実践できると思った。

【算数】

- ・目を合わせる、子どもの考えを視覚化する、子どもの悩みを共有し全体に広めるなど、あらゆる点から子どもの目線に合わせていることがよく伝わりました。こういった姿勢を教師が見せることで、子どもたちは安心して学校に向かうことができるのだと思いました。
- ・中学校数学教員の立場で授業参観をした。丁寧に問題文を読み取ったり、児童一人一人に見通しをもたせたりしながら課題解決にせまらせようとする授業者のきめ細かさや、机間巡視で見取ろうとする姿勢が印象的だった。



授業改善グランドデザイン

8月4日（月）に義務教育課から「令和7年度授業改善グランドデザイン」が示されました。

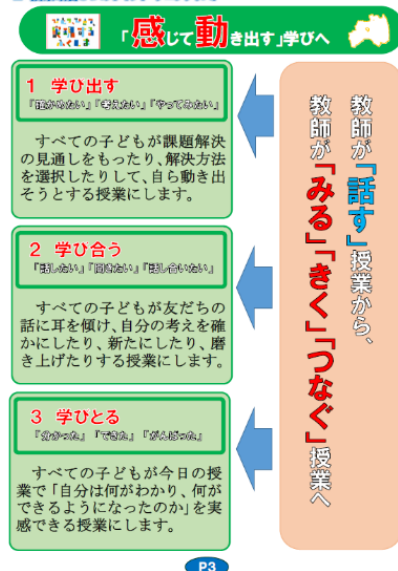
今年も昨年度に引き続き、「教師が『話す』授業から、教師が『みる』『きく』『つなぐ』授業へ」が、授業改善の視点として挙げられています。

また、児童質問紙「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表した」の項目と学力において相関が見られました。

これらのことから、教師が一方的に説明をすることよりも、児童生徒が試行錯誤しながらより適切な表現へと高める機会を多く設定していくことが、児童生徒の学力を高めることがつながるのではないのでしょうか。

ぜひ、児童生徒が試行錯誤しながらアウトプット（言葉で、文字で、図や表で）する機会を多くしていきましょう。

2 授業改善のためのグランドデザイン



～ 授業改善チェックリスト ～

- ＜すべての子どもが「学ひ出す」授業 に関するために＞
- すべての子どもに結果の見通しをもたせたり、解決の見通しをもたせたりしている。
 - すべての子どもの多様な見方や考え方を引き出すことができる学習課題を設定している。
 - 教材との出合わせ方を工夫し、「考えたい」「やってみよう」という思いを引き出すようにしている。
- ＜すべての子どもが「学ひ合う」授業 に関するために＞
- 友だちの考えを聞きたい、自分の考えを話したいと思う発問を設定している。
 - すべての子どもが、互いの考えを比較、検討、吟味することができる時間を確保している。
 - 子どもと子どもの発言をつないで、集団で学び合える授業づくりをしている。
 - 分からないことを「分からない」と言える安全・安心に学べる学級になっている。
 - 教師が話しすぎることなく、子どもが話し機会を多く確保している。
- ＜すべての子どもが「学ひとる」授業 に関するために＞
- 授業で何がわかり、どのようなことができるようになったのか、自分の言葉で学んだことを振り返らせている。
 - 学んだことを活用したり、次の学びにつなげようと考えたりする場面を位置付けている。
 - 個に応じた振り返りの視点を与え、自分の成長や実習に気付くことができるようにしている。
- 子どもの学びから自分の指導を振り返っている。

